

### 3 ワークショップ結果にみる課題と対応策

ワークショップは平成 29 年 7 月に全 3 回実施し、西山手、東山手、精道、潮見の地域（日常生活圏域）ごとに、「認知症の方への支援」をテーマに検討しました。

#### (1) 実施目的

市民ワークショップの目的は以下の通り設定しました。

##### ■ワークショップの実施目的

- 地域包括ケアシステム構築に向けて、当事者、支援者等が日常において感じている課題や問題点を把握すること
- 高齢者を支える地域づくりにおける施策の方向性のための検討材料を得ること

#### (2) 検討テーマの選定理由

【選定理由①】（国・県の状況）

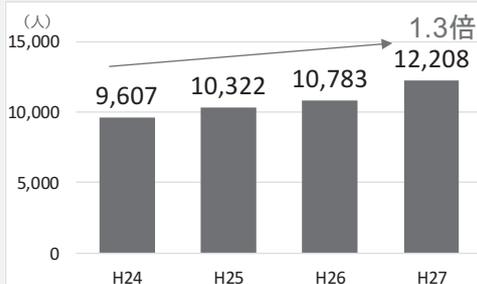
次期芦屋すこやか長寿プラン 21 は地域包括ケア計画の 2 期目の計画として位置づけられます。地域包括ケアシステムの実現に向けて「認知症施策の推進」が、国・県において、引き続き重点事項としてあがっています。

#### 認知症に関わる事象

○認知症患者数  
全国推定患者数

517～525万人(2015年)  
65歳以上で15.0% 7人に1人  
675～730万人(2025年)  
65歳以上で19.0-20.6% 5人に1人  
※高齢者白書(H28年版)

○行方不明者(認知症) ※警察庁



#### 次期計画の位置づけと認知症施策

○次期芦屋すこやか長寿プラン21は地域 包括ケア計画の2期目の計画



2015年

▲  
団塊の世代  
が65歳

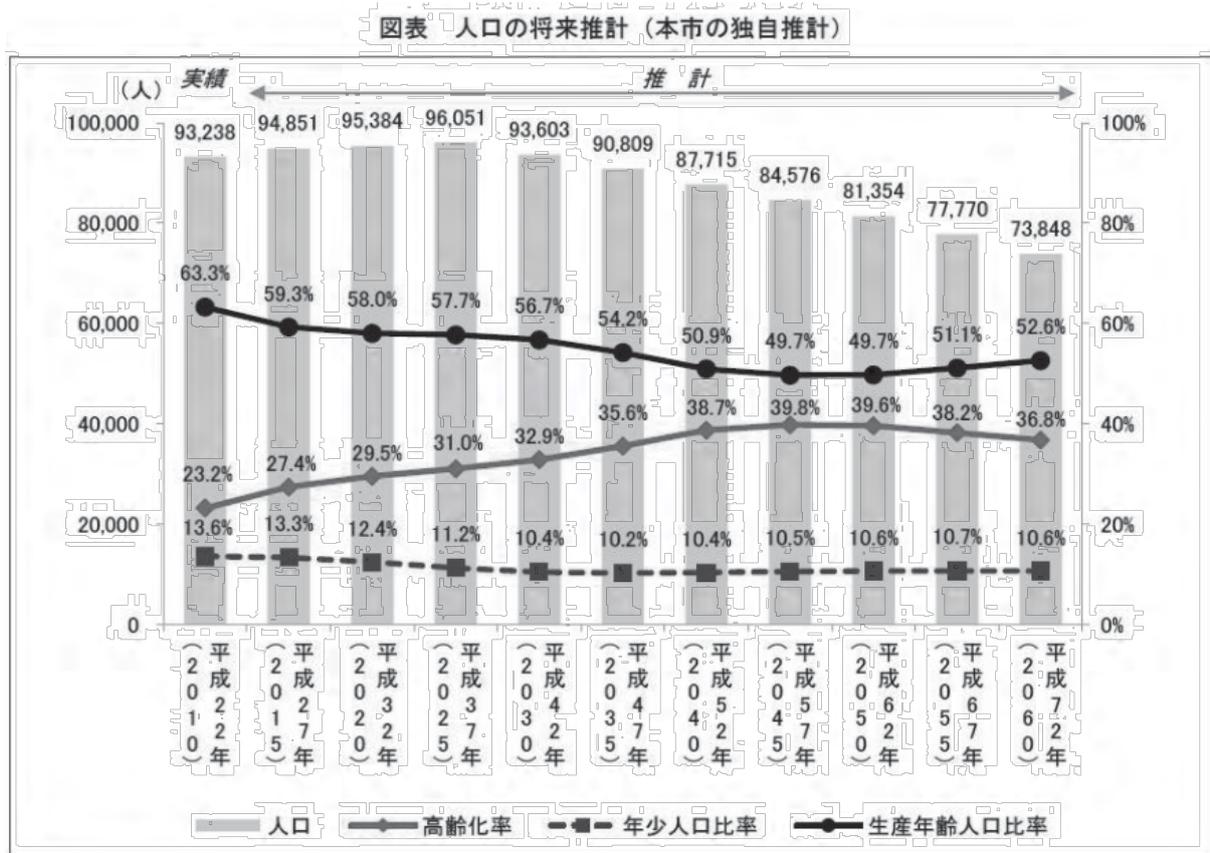
○計画の基本指針(案)において、「地域包括ケアシステム構築のため重点的に取り組むことが必要な事項」の1つとして「認知症施策の推進」が挙げられている(厚労省資料)

○次期計画策定では、「認知症施策の推進」で認知症の人の視点に立った認知症施策が求められている(兵庫県資料)

【選定理由②】（芦屋市の状況）

高齢社会の進展を背景に、全国と同様に、本市においても認知症高齢者が増加しています。

これまでも本市では、現行計画において、認知症高齢者への支援体制を推進し、認知症サポーターの増加や認知症初期集中支援チームの整備などに取り組んできました。一方、認知症サポーターの活躍の場の提供など新たな課題もでてきました。

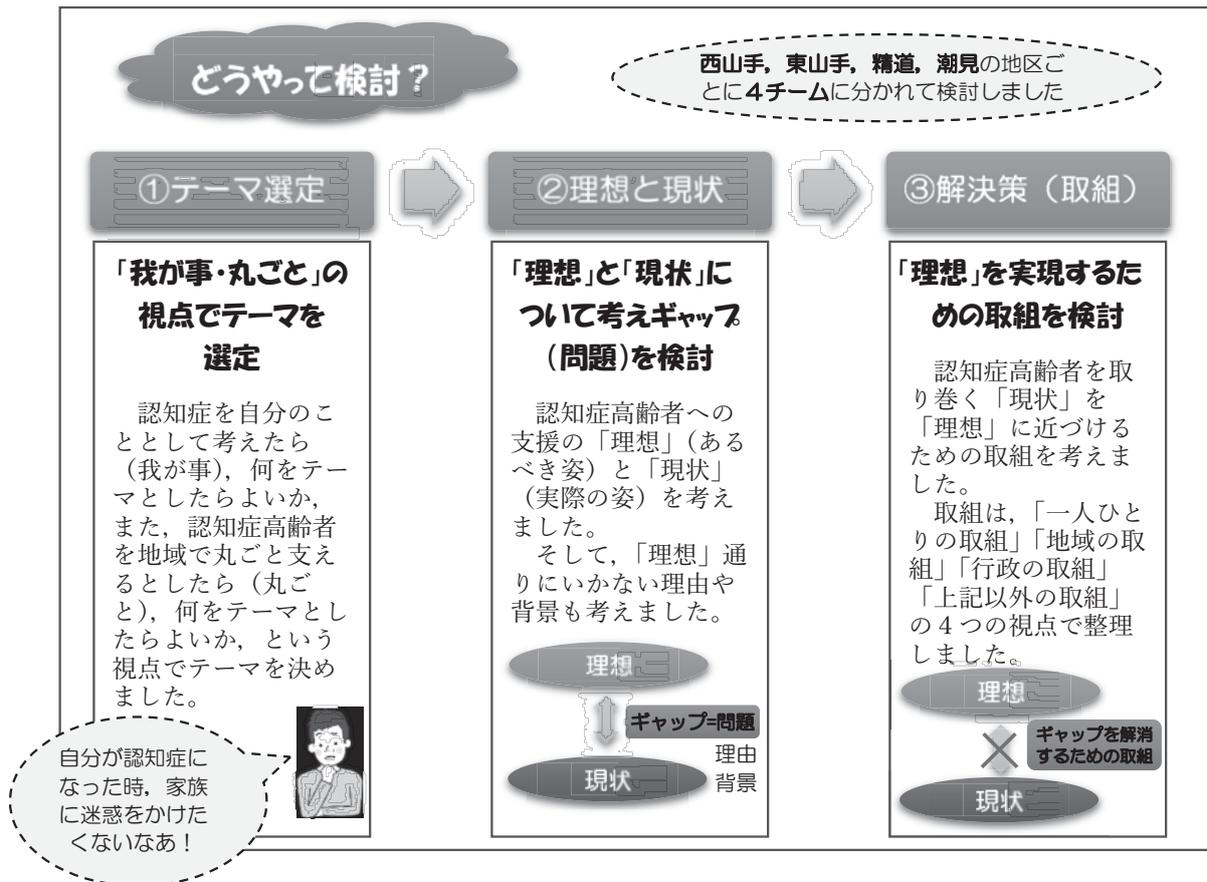


（資料）芦屋市将来人口推計報告書(平成27年3月)

### (3) 検討方法

「認知症の何を話し合うか」という検討テーマも各チームで選定し、理想と現状、取組を、3回（3日間）に分けて、検討しました。

検討テーマは、各チームで多くの候補があがりましたが、チームごとに投票で3つに絞りました。



## (4) 実施結果

### ①西山手地区

#### 【検討テーマ】

西山手地区では、次の3つにテーマを決めました。

- 認知症の方へのサービス
- 今まで通りの暮らしをしたい/認知症になっても自分らしく暮らしたい
- 地域の人に支えてほしい（災害時・緊急時は特に必要となる）

#### 【理想と現状、及び解決策(取組)】

西山手地区では、理想と現状について、検討テーマごとに以下の意見が検討されました。また、検討した理想を実現するための解決策（取組）について、以下の意見が検討されました。

- 認知症の方へのサービス

理想	現状
<ul style="list-style-type: none"><li>●サービス等の情報が整理され、誰がみても簡単に理解することができる。</li><li>●認知症の人が利用できる地域の集いや気軽に立ち寄れる場をつくり支援する。</li></ul>	<ul style="list-style-type: none"><li>●多くのサービスがあり書類も複雑であるため、制度を理解できない。また知らない人が多い。</li><li>●地域で認知症の人が一人でいける場所がどこかわからない。</li></ul>

	解決策(取組)
一人ひとりの取組	<ul style="list-style-type: none"><li>●サービスや相談窓口（高齢者生活支援センター）について知っている人が、知らない人に教えてあげる。</li><li>●見守り（訪問、電話かけ、食事）など、自分のことから始める。</li></ul>
地域の取組	<ul style="list-style-type: none"><li>●認知症の人も含めて、誰でも集える場所を発見し、居場所をつくる。</li><li>●地域に認知症カフェを増やす。</li></ul>
行政の取組	<ul style="list-style-type: none"><li>●行政書類を簡素化し、行政サービスを分かりやすく紹介する。</li><li>●子育て・教育部門と連携して、就学前児童から高校生まで、施設訪問や施設に関する学習ができるようにする。</li></ul>
上記以外の取組	<ul style="list-style-type: none"><li>●町ごとの民生委員・児童委員、福祉推進委員の定期的な状況把握。</li></ul>

○ 今まで通りの暮らしをしたい/認知症になっても自分らしく暮らしたい

理想	現状
<ul style="list-style-type: none"> <li>●自分の趣味や交友関係を保ちながら、暮らすことができる。</li> <li>●自由に外出ができ、どこに行っても自宅に戻ることができ、家族が外出したい時も近所の人が見守る環境がある。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●認知症になると、会話がしにくくなり、交友関係の維持が難しい。</li> <li>●外出の回数も減り、一人で外出しても戻ることができない。</li> </ul>

	解決策(取組)
一人ひとりの取組	<ul style="list-style-type: none"> <li>●セルフケアとして定期的を受診する。</li> <li>●認知症を正しく理解する。</li> </ul>
地域の取組	<ul style="list-style-type: none"> <li>●認知症について偏見をなくすよう認知症サポーターを増やす。</li> <li>●認知症の人が散歩しやすいように一緒に歩いて、世話をする。</li> <li>●ゴミ出しなどで間違えることが多くなった人には、直接手を貸す。</li> </ul>
行政の取組	<ul style="list-style-type: none"> <li>●地域の店と市民との意見交換。</li> <li>●芦屋川カレッジ等において、認知症サポーター養成講座・介護予防リーダー養成講座を生涯教育として取り入れる。</li> <li>●NPOとの協働。</li> </ul>
上記以外の取組	<ul style="list-style-type: none"> <li>●地域の居場所づくりを団体や民間、NPOと協力してつくる。</li> </ul>

○ 地域の人に支えてほしい（災害時・緊急時は特に必要となる）

理想	現状
<ul style="list-style-type: none"> <li>●普段からの近所付き合いがあり、認知症であることや、家族に認知症の方がいることを周囲に伝えることができる。</li> <li>●そのような環境で、地域で認知症の人を支える。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●地域では認知症について正しい理解が浸透していないため、関わりを避ける傾向にあり、日常の些細なことを頼める人はいない。</li> <li>●認知症の方に何かあれば警察で対応しているのが現状であり、地域の人で支えられる体制になっていない。</li> </ul>

	解決策(取組)
一人ひとりの取組	●日頃からの地域の人との関係を大切にする。
地域の取組	●地域で近隣の住民を知り，個人を支えるシステムをつくる。
行政の取組	●地域の広報を支援，協力する。
上記以外の取組	●地域で働く人が地域のことを知る。

## ②東山手地区

### 【検討テーマ】

東山手地区では、次の3つにテーマを決めました。

- 相談したい
- サポート体制
- 地域の協力体制

### 【理想と現状, 及び解決策(取組)】

東山手地区では、理想と現状について、検討テーマごとに以下の意見が検討されました。また、検討した理想を実現するための解決策（取組）について、以下の意見が検討されました。

- 相談したい

理想	現状
<ul style="list-style-type: none"> <li>● 相談場所が明らかで、身近な場所ですぐに、気軽に相談できる。</li> <li>● 身近な相談場所から関係機関につながる体制ができている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 総合相談窓口として、高齢者生活支援センターがあり、芦屋市社会福祉協議会（以下「社会福祉協議会」という。）にも相談窓口が設置されている。</li> <li>● 身近に相談できる環境がなく、相談場所がわからない人が多い。（相談窓口の周知が不十分）</li> </ul>

	解決策(取組)
一人ひとりの取組	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 近所の人と顔の見える関係をつくり、知識を深めて身近な人を助ける。</li> </ul>
地域の取組	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 地域で施設訪問を企画し、積極的に見学し、施設を肌で感じ、身近な場所にしていく。</li> </ul>
行政の取組	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 認知症専門窓口をつくる。（認知症 110 番）</li> <li>● 相談窓口の情報発信をもっと工夫する。</li> <li>● 施設、事業所における相談窓口の設置を推進する。</li> </ul>
上記以外の取組	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 相談窓口の職員が日頃から地域イベントに参加し、顔が見える関係をつくる。</li> </ul>

○ サポート体制

理想	現状
<ul style="list-style-type: none"> <li>● 情報交換や徘徊時に対応するネットワークができています。</li> <li>● 地域全体で認知症の理解ができています。</li> <li>● 地域サポーターが育成され、地域全体でサポート体制を構築する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 傾聴ボランティア（シルバー人材センター）や関係機関による福祉学習は実施されているが、インフォーマルサービスによるサポート体制が構築されておらず、認知症の人へのサポートができていない。</li> <li>● 介護保険サービスしかない。</li> </ul>

	解決策(取組)
一人ひとりの取組	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 認知症のことをもっと学習し、認知症を正しく理解して偏見を持たずに接する。</li> </ul>
地域の取組	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 自治会に高齢者対応窓口をつくり、相談体制をつくる。</li> <li>● 学びたいことが学べる場をみんな（住民、行政、施設）でつくる。</li> <li>● 身近に集まれる場所をつくる。</li> </ul>
行政の取組	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 地域ニーズを把握し、身近なテーマでセミナーを開催する。</li> <li>● 市全体の施設情報を周知する。</li> </ul>
上記以外の取組	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 掲示板や情報誌で、関係機関がお互いにPRし合う。</li> </ul>

○ 地域の協力体制

理想	現状
<ul style="list-style-type: none"> <li>● 自治会等の地域で認知症の現状を共有し、地域で顔見知りになる。</li> <li>● 地域と施設の協力体制・関係を構築する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 自治会、老人会、地区福祉委員会等に見守り体制があるが、協力体制に地域の差がある。</li> <li>● 地域と施設の関係づくりが不十分。</li> <li>● 地域の協力体制を誰が進めるのかわからない。</li> </ul>

	解決策(取組)
一人ひとりの取組	●見守りボランティアに参加するなど、できることからしてみる。
地域の取組	●連絡網を整備し、見守りネットワークを構築する。
行政の取組	●勉強できる場や集いの場の整備。 ●定期的な認知症徘徊模擬訓練の実施。
上記以外の取組	●掲示板、地域紙等で地域に民生委員・児童委員の存在を周知する。

### ③精道地区

#### 【検討テーマ】

精道チームは次の3つにテーマを決めました。

- 見守り・声かけ
- 支援のネットワーク
- 認知症の理解

#### 【理想と現状, 及び解決策(取組)】

精道地区では、理想と現状について、検討テーマごとに以下の意見が検討されました。また、検討した理想を実現するための解決策(取組)について、以下の意見が検討されました。

- 見守り・声かけ

理想	現状
健康長寿の取組の芦屋スタイルが確立し、「やさしい声かけ」と「さりげない見守り」で、誰でもありのままの姿で生活できる。 「やさしい声かけ」 <ul style="list-style-type: none"><li>・ 認知症になっても、今までどおり、近所の人を訪ねてきてくれる</li><li>・ 話しかけられやすい地域をつくる</li></ul> 「さりげない見守り」 <ul style="list-style-type: none"><li>・ 行きたい所に気がねなく行ける</li><li>・ 一緒に外出してくれる人がいる</li></ul>	認知症・オレンジカフェといった居場所があったり、高齢者生活者支援センターへつなぐことはできているが、声のかけ方がわからず、見てみぬふりをしてしまう。

	解決策(取組)
一人ひとりの取組	<ul style="list-style-type: none"> <li>●あいさつ運動をする。</li> <li>●普段からあいさつ，声かけをして顔見知りを増やしておく。</li> </ul>
地域の取組	<ul style="list-style-type: none"> <li>●認知症に優しい地域であることをいろいろな場所で声をあげる。</li> <li>●元気なうちから自分のサポーターをつくる。(友達10人)</li> <li>●自治会でオレンジリングを身につけて歩こうとアピールする。</li> </ul>
行政の取組	<ul style="list-style-type: none"> <li>●相談窓口で認知症チェックをすることをあたりまえにする。</li> <li>●ケーブルテレビの芦屋市広報番組を活用して，周知・広報する。</li> </ul>
上記以外の取組	<ul style="list-style-type: none"> <li>●認知症サポーターやひとり一役ワーカー等の活動先の拡充。</li> </ul>

○ 支援のネットワーク

理想	現状
<ul style="list-style-type: none"> <li>●認知症になってもならなくてもご近所づきあいが活発なまち。</li> <li>●認知症になっても安心できる居場所がある。</li> <li>●必要な情報がすぐにわかり，共有されている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●誰でも気軽に行ける場所がまだまだ少ない。</li> <li>●困った時の相談先，問い合わせ先がわからず，どこに連絡すればよいかわからない。</li> </ul>

	解決策(取組)
一人ひとりの取組	<ul style="list-style-type: none"> <li>● オレンジカフェに参加して、来られている方の顔と名前を覚える努力をする。</li> </ul>
地域の取組	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 居場所ネットワークをつくる。</li> <li>● 自治会、老人会などと問題を共有する。</li> <li>● 顔を合わせる機会を増やして、情報共有する。</li> </ul>
行政の取組	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 居場所をつくる。</li> <li>● 徘徊者保護対応のシステムづくり。</li> <li>● 認知症カフェへの支援ネットワーク。</li> <li>● 認知症サポート医を増やす。</li> <li>● 認知症初期集中支援チームの取組を周知する。</li> </ul>

○ 認知症の理解

理想	現状
<ul style="list-style-type: none"> <li>● 小さい時から認知症について学習し、認知症の人を特別扱いせず、認知症の人が安心して外出できる地域をつくる。</li> <li>● 地域に認知症に対応できる医療機関がある。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 認知症の人と接する機会が少なく、認知症に対する理解が不十分。</li> <li>● 家族の理解が不十分で、診断されても「あまり知られたくない」と思う家族が多い。</li> <li>● 専門医療機関が不足している。</li> </ul>

	解決策(取組)
一人ひとりの取組	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 認知症サポーター講座、講演会に参加して勉強し、認知症について学習し、適切な関わり方を知る。</li> </ul>
地域の取組	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 活弁に楽しく参加できる機会を自治会で増やす。</li> <li>● 様々な催しの中に、認知症を考える時間を作る。</li> </ul>
行政の取組	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 子どもの時から認知症を身近に感じるように多世代交流の場をつくる。</li> <li>● 認知症に関する情報の集約、一元化。</li> <li>● 認知症の人が集える場所を提供する。</li> </ul>
上記以外の取組	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 世代に関わらず、高齢者施設へ行ってみる。</li> <li>● 認知症を理解することを次世代に伝える。</li> </ul>

#### ④潮見地区

##### 【検討テーマ】

潮見チームは次の3つにテーマを決めました。

- 正しい理解
- 居場所
- 地域の見守り

##### 【理想と現状, 及び解決策(取組)】

潮見地区では、理想と現状について、検討テーマごとに以下の意見が検討されました。また、検討した理想を実現するための解決策（取組）について、以下の意見が検討されました。

- 正しい理解

理想	現状
<p>小さな頃から継続して学ぶことができ、みんなが認知症の人に対応ができ、認知症であるかないかが問題とならないまち。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 認知症サポーター養成講座が知られていない。認知症サポーター養成講座も同じ人が受講している。</li> <li>● 高齢者施設ができそうになると、反対運動がおこるなど、認知症のイメージがよくない。</li> <li>● 認知症の方との接し方をわかっている人が少ない。</li> </ul>

	解決策(取組)
一人ひとりの取組	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 認知症サポーター養成講座への参加の声かけを一人ひとりで行う。</li> <li>● オレンジリングを身につける。まずは大人からはじめる。</li> </ul>
地域の取組	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 各自治会で年に1回は認知症サポーター養成講座を企画、開催する。</li> <li>● オレンジリング週間を設ける。</li> </ul>
行政の取組	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 認知症の方のケースを地域ケア会議で検討する。</li> <li>● オレンジリングのかわりに、オシャレで可愛いものにすることで、身につけやすいものにする。</li> </ul>

	<ul style="list-style-type: none"> <li>●小学生，中学生や高校生も認知症サポーター養成講座を受ける等，学校の授業で「認知症」教育をする。</li> </ul>
上記以外の取組	<ul style="list-style-type: none"> <li>●市内の掲示板を活用して認知症サポーター養成講座を知らせる。</li> <li>●認知症支援に関する活動をしたら，ポイントが加算され特典が付くような仕組みを作る。</li> <li>●一般のキャラバンメイトの方と一緒に認知症サポーター養成講座のプログラムを作る。</li> </ul>

○ 居場所

理想	現状
<p>いつでもどこでもだれでも集まれるオシャレな場所があり，社会参加できる場が確保されている。</p> <p>「オシャレな場所」</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 毎日地域の方と接する機会，場所の確保</li> <li>・ お金がかからない場所で誰でも行ける場所が町に 1 つ以上</li> <li>・ 何時間居ても追い出されない場所</li> <li>・ 夜も集まれる酒場</li> </ul> <p>「社会参加ができる」</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 格安な施設（家の家賃ほどで入れる施設）</li> <li>・ ボランティアや仕事等，社会参加の場所</li> <li>・ 認知症になっても自分の役割がある</li> </ul>	<p>居場所を作る資金がなく，今ある場所の情報が周知されていない。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ サロンはあっても回数や場所が限られている</li> <li>・ カフェを作ろうと思ってもお金がないし，ボランティアもいない</li> <li>・ サロンはあっても認知症の人は一人で行けない</li> </ul>

	解決策(取組)
一人ひとりの取組	<ul style="list-style-type: none"> <li>● お茶会と一緒にいこうと声かけする。</li> <li>● オレンジリングを自宅につけてかけ込めるようにする。</li> </ul>
地域の取組	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 自治会，管理組合などで認知症に限らず集える場所をつくっていく。</li> <li>● 居場所を作るために講座を行う。</li> <li>● 認知症の人の家族が相談出来る場所を設置。</li> </ul>
行政の取組	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 認知症カフェ等の集える場所の情報を発信する。</li> <li>● 病院に認知症相談コーナーをつくる。</li> <li>● トライやる・ウィーク等で若者に声かけする。</li> </ul>
上記以外の取組	<ul style="list-style-type: none"> <li>● コープ等の身近な店舗に出張相談を設置。</li> <li>● 地区が違ってても相談を受けてくれる場所の確保。</li> <li>● 社会福祉協議会とリードあしやとのコラボレーション。</li> </ul>

○ 地域の見守り

理想	現状
<p>地域の全員が顔見知りで、気軽に声かけできる。</p> <p>(効果)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・好きに買物ができる</li> <li>・行方不明になってもすぐに発見できる</li> <li>・無料の24時間見守りサービスが構築される</li> <li>・多少迷惑がかかっても許される</li> <li>・地域で自発的に活動が起こる</li> <li>・自分に自覚がなくても、周りからサポートしてもらえる</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●高齢者が身近にいないため、高齢者のイメージそのものがない。また、顔見知りの関係を作るには、時間がかかる。</li> <li>●近所の人顔を知らない。</li> <li>●地域での活動に若い世代の参加が少ない。</li> </ul>

	解決策(取組)
一人ひとりの取組	<ul style="list-style-type: none"> <li>●隣近所にあいさつする。</li> <li>●地域行事に誘いの声をかける。</li> <li>●顔を知らなくてもあいさつする。</li> </ul>
地域の取組	<ul style="list-style-type: none"> <li>●気軽にあいさつをする週間をつくる。</li> <li>●「気になる人がいる」という情報を共有できる場が必要。</li> <li>●店舗や人と対面する仕事をしている団体に認知症の理解を深めてもらう。</li> <li>●施設等の人が集まる場所において民間の有名飲食店とコラボレーションする。</li> </ul>

## 4 関係団体等意向調査にみる課題

---

第8次芦屋すこやか長寿プラン 21 を策定するにあたり、医療関係者や介護保険事業関係者等からみた課題・問題を把握するため、アンケート調査を実施しました。得られた回答結果から課題を整理しました。

### (1) 回答結果まとめ

#### ①芦屋市医師会・芦屋市歯科医師会・芦屋市薬剤師会（以下「三師会」という。）

##### (1)医療・介護連携を推進するための会議や情報交換の場の検討・実施

医療・介護連携が進んでいますが、会議や情報交換の場がまだ十分でないという意見があがっています。また、医師会等との連携にとどまらず、今後は個々の医師・歯科医師・薬剤師と介護職との連携を進めていく必要があります。

###### 【検討の方向性】

- 三師会間、個々の医師等と介護職間における連携のあり方と推進

##### (2)認知症の方に対する気づきと関係機関へつなぐ仕組みの整備

認知症を疑われる人で認知症専門の医療機関を受診しない人が増えているのではないかという意見があがっています。今後も引き続き早期発見・早期対応する仕組みを整備していく必要があります。

###### 【検討の方向性】

- 認知症への対応が可能な一般医院や人材の育成の支援
- 高齢者生活支援センターの窓口機能・相談機能の強化

##### (3)芦屋市地域発信型ネットワークの機能強化

芦屋市地域発信型ネットワークは地域課題を把握するために重要ですが、ネットワークの機能が十分でないという意見があがっています。

###### 【検討の方向性】

- 発見した地域課題を、ネットワークを通じて共有し、解決できているかの検証

## ②医療機関（病院）

### (1)各機関別に、連携できている点とできていない点を整理して課題を共有することが必要

医療機関と各関係機関との連携上の課題は、各関係機関によって異なります。連携を一層深めていくためには、各関係機関が情報共有し、現状では、どこまで連携できていて、どこからできていないかを共有する場を設定する必要があります。

#### 【検討の方向性】

- 連携上の課題について、制度に関わること、意思疎通に関わることなど種別で整理して共有
- 課題や解決策を検討・共有する場の設定

### (2)認知症の方に対する気づきと関係機関へつなぐ仕組みの整備

認知症予防，在宅支援，早期発見・早期対応，相談窓口，退院調整などに対する意見があがっています。これらに対応するため，気づきから関係機関につなぐ仕組みを整備することが必要です。

#### 【検討の方向性】

- 早期発見・早期対応のための地域住民による見守りの強化
- 高齢者生活支援センターの窓口機能・相談機能の周知徹底

### (3)在宅生活継続のための本人の意思尊重，介護者支援の強化

在宅介護の考えが本人・家族に浸透していないという意見があがっています。在宅介護のためには，本人の意思決定支援（在宅希望かどうか）や支援者の医療知識の向上が必要という意見があがっています。

#### 【検討の方向性】

- 本人の意思決定支援，介護者支援の具体的な方法と実現方法

### ③高齢者生活支援センター

#### (1) 地域包括支援センター業務や地域支援事業における個々の業務や事業に応じた課題解決の検討

地域包括支援センター業務や地域支援事業について、現状の様々な問題点や課題があがっています。それぞれ、課題を検討し、緊急度や効果の大きさなどから優先順位をつけて、課題解決を進めることが必要です。

##### 【検討の方向性】

- 地域包括支援センター業務や地域支援事業における課題と解決策の検討

#### (2) 自主的な介護予防活動を普及するための方策の検討

いきいき百歳体操の PR，行政職や専門職のボランティアの推進，自主的な活動に関わる教育，自主活動グループづくりの担い手育成の研修，トレーナー費用の補助など，自主的な介護予防活動を普及するためアイデアが多くあがっています。また，地域包括支援センターだけで普及するには限界があると感じるとの意見があがっているため，介護予防活動に関わる機関・団体で普及について検討する必要があります。

##### 【検討の方向性】

- 介護予防活動が自主的に実施されるよう，介護予防活動に関わる機関・団体で普及方法を検討

#### (3) 地域ケア会議を活性化するための改善点の整理

会議準備の負担，事例提供の負担など，ポジティブプランのための研修の必要性が指摘されています。地域ケア会議を活性化するため，改善点を整理して，実施していくことが必要です。

##### 【検討の方向性】

- 地域ケア会議が活発化するよう，課題や改善点を検討

#### ④芦屋市ケアマネジャー友の会

##### (1)本市の人口規模を生かした医療・介護連携の仕組みづくり

本市の人口規模から顔の見える関係性が一部できていますが、組織ごとの関係では十分ではないという意見があがっています。

###### 【検討の方向性】

- 組織ごとに顔の見える関係を構築していく仕組みの検討

##### (2)地域ケア会議の位置づけと自立支援に資するケアプランの概念の啓発

自立支援に資するケアプランといったことを、単なる機能向上の概念として捉えることのないようにすることが求められるという意見があがっています。また、この観点での地域ケア会議の意義を明確にしていくことが必要という意見があがっています。

###### 【検討の方向性】

- 地域ケア会議の位置づけと自立支援に資するケアプランの概念の見直し

#### ⑤居宅介護支援事業所

##### (1)往診や緊急対応、夜間対応、看取り対応等における医療・介護連携の強化

往診や緊急対応、夜間対応、看取り対応等で連携が必要という意見があがっています。

###### 【検討の方向性】

- 往診や緊急対応、夜間対応、看取り対応等における具体的な連携方法

##### (2)住民主体の介護予防の推進のための具体的な方法の検討・整理

歩いていける距離で、開催している場があることという意見をはじめ、多くの具体的なアイデアがあがっています。このようなアイデアを検討・整理する必要があります。

###### 【検討の方向性】

- あがっている具体的なアイデアの実現方法の検討

### (3) 在宅生活継続のための具体的な支援の検討・整理

生活全般について把握した上での多種多様な支援などの意見をはじめ、多くの具体的なアイデアがあがっています。このようなアイデアを検討・整理する必要があります。

#### 【検討の方向性】

- あがっている具体的なアイデアの実現方法の検討

## ⑥ 芦屋市介護サービス事業者連絡会

### (1) 医療介護連携の仕組みづくり

顔の見える関係性ができている事業者がある一方で、十分ではない事業者もあるという意見があがっています。

#### 【検討の方向性】

- より効果的な連携方法の検討

### (2) 住民主体の介護予防を推進するための具体的な方法の検討・整理

リハビリテーション専門職の活用、介護予防のリーダー養成、自治会・老人会等地域団体との連携などの具体的なアイデアがあがっています。このようなアイデアを検討・整理する必要があります。

#### 【検討の方向性】

- あがっている具体的なアイデアの実現方法の検討

### (3) 連携・ネットワークで重要な役割を担う事業所の確保や人材の育成

連携・ネットワークで要になる事業所や人材の育成支援が必要という意見があがっています。

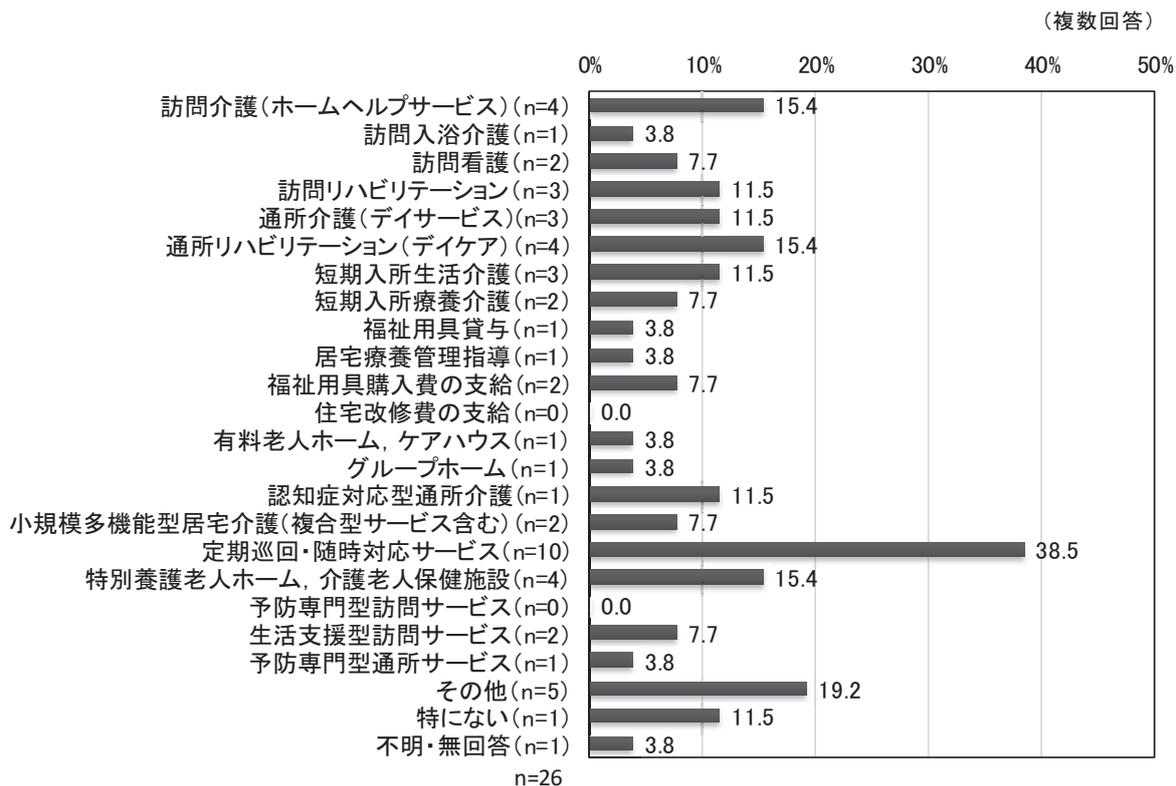
#### 【検討の方向性】

- 連携・ネットワークで重要な役割を担う事業所の確保や人材の育成の検討

⑦その他

(1) 今後3年間で必要と考えるサービス

「定期巡回・随時対応サービス」、「訪問介護（ホームヘルプサービス）」、「通所リハビリテーション（デイケア）」、「特別養護老人ホーム、介護老人保健施設」が多くなっています。

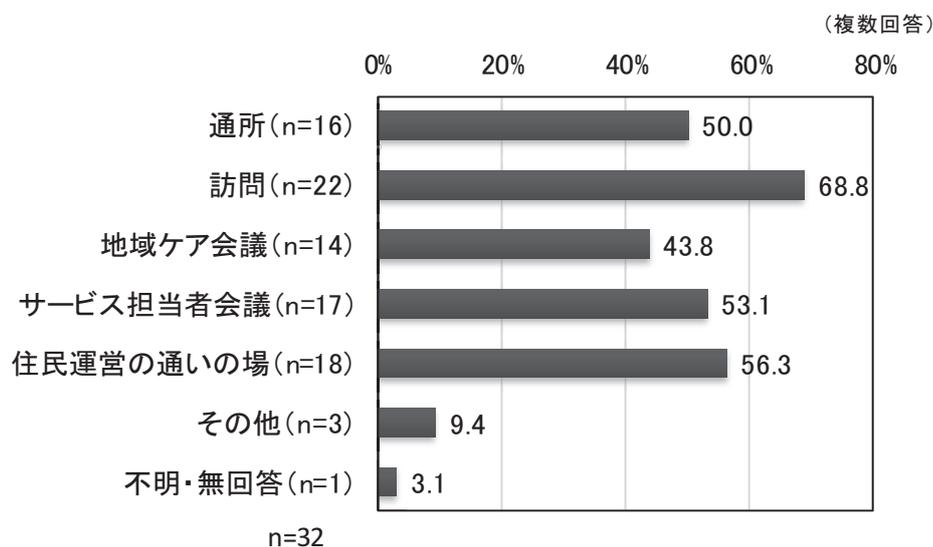


質問対象： 居宅介護支援事業所，ケアマネジャー友の会，介護サービス事業者連絡会，高齢者生活支援センター

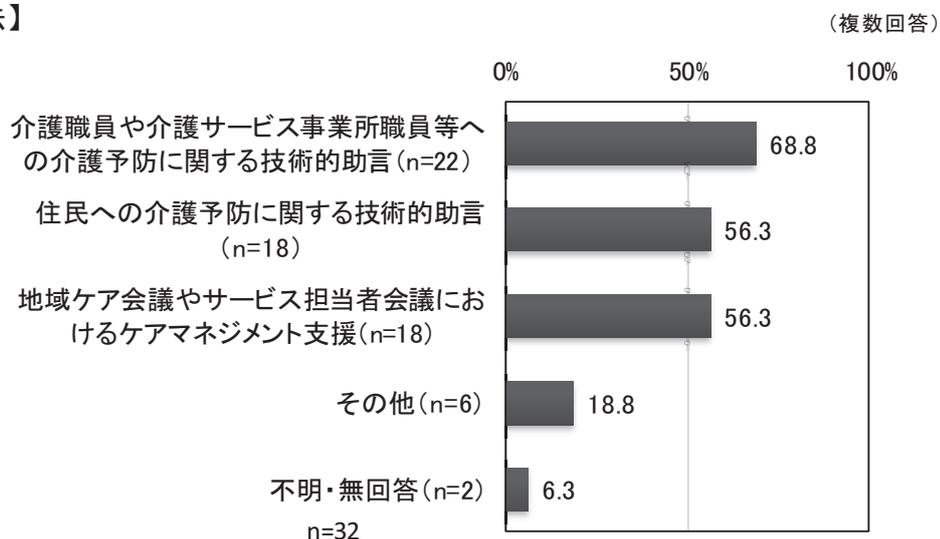
(2) 地域リハビリテーション活動支援事業における活用の場、及び活用の方法

活用の場では、「訪問」が68.8%、活用の方法では「介護職員や介護サービス事業所職員等への介護予防に関する技術的助言」が68.8%で多くなっています。

【活用の場】



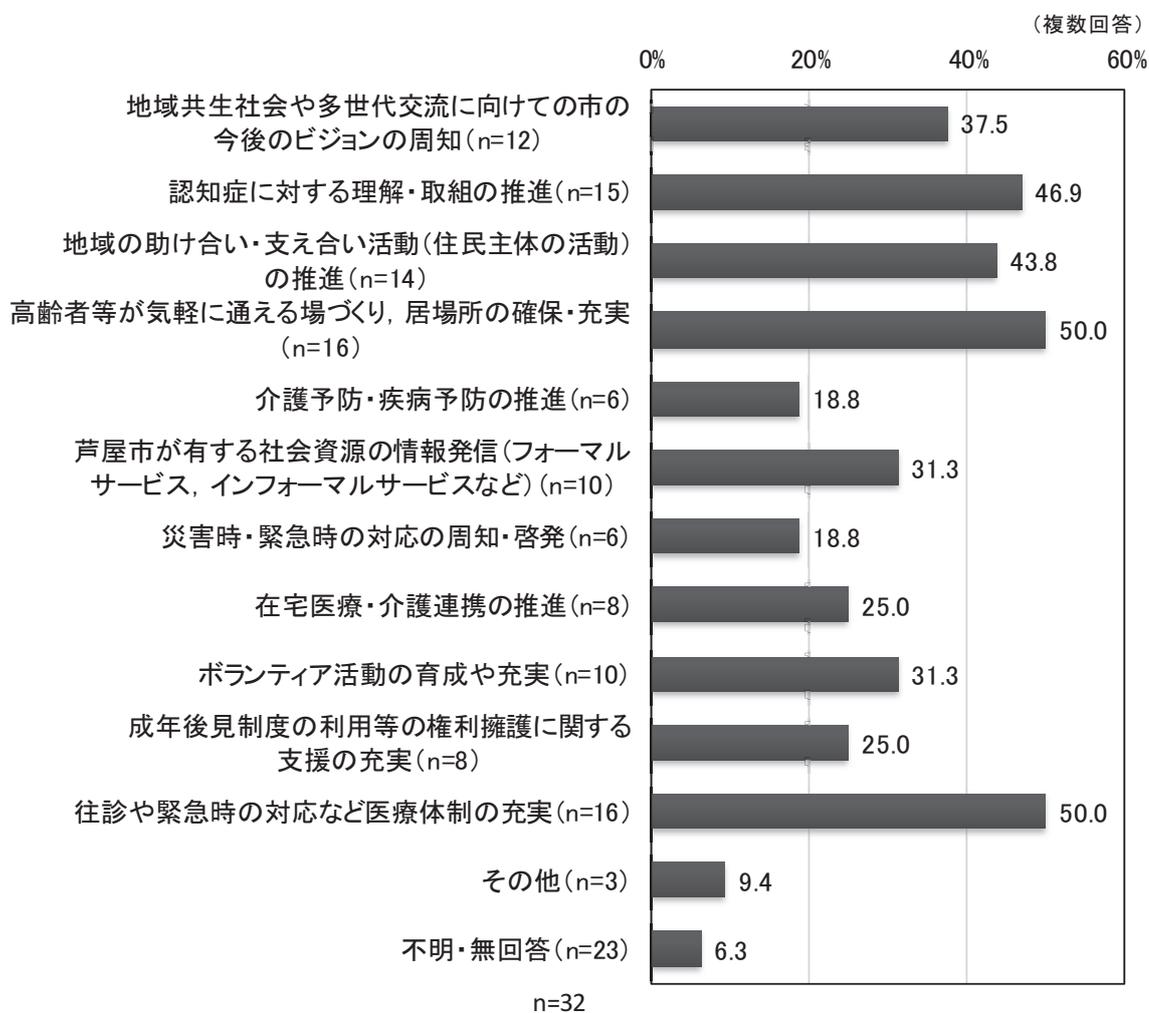
【活用の方法】



質問対象： 全調査

### (3) 取り組むべき市の施策

「高齢者等が気軽に通える場づくり，居場所の確保・充実」(50.0%) や  
 「往診や緊急時の対応など医療体制の充実」(50.0%) が多くなっています。



質問対象： 全調査

## 第3章

---

### 計画の基本的な考え方

# 1 基本理念

---

わが国は、世界でも類を見ない超高齢社会に突入しています。平成 37 年(2025 年)には、団塊の世代が 75 歳以上の後期高齢者となるほか、平成 52 年(2040 年)には団塊ジュニア世代が 65 歳以上となるなど、人口の高齢化は今後さらに進展することが見込まれ、本市もその例外ではありません。こうした中、“介護や支援を必要とする状態になっても、可能な限り住み慣れた地域で安心して暮らしたい”という思いは、市民共通の願いです。

その願いを実現するために、身近な地域で様々な相談ができ、一人ひとりの心身の状態に応じたきめ細かな支援が得られるよう、住まい・医療・介護・予防・生活支援が日常生活の場で一体的に提供される体制「地域包括ケアシステム」をさらに深化・推進し、地域共生社会の実現に向けた「我が事・丸ごと」の地域づくりと包括的な支援体制の構築を目指します。

また、誰もが尊厳と生きる喜びを享受しながら快活に生きていける、活力ある超高齢社会を実現するために、高齢者が生涯学習や就労、趣味の活動、交流などを通して、地域社会の一員としての役割を担い、高齢者をはじめすべての市民が、地域での交流や見守り、お互いが助け合う活動、また、防犯・防災活動などを主体的に進め、心が通い合うだれもがいきいきと安心して暮らせるまちづくりを目指します。

以上の基本理念に従い、目指すべき将来像の実現に向け取り組んでまいります。

**『高齢者がいつまでも、いきいきと安心して暮らせるまち』**

## 2 基本目標

『高齢者がいつまでも、いきいきと安心して暮らせるまち』の実現を目指して、本計画では次の4つの基本目標を掲げます。

### 基本目標1 高齢者を地域で支える環境づくり

地域の高齢者への総合的な支援を行う高齢者生活支援センターの機能強化や周知を行い、社会福祉協議会と連携し市民とともに、芦屋市地域発信型ネットワークの充実を推進します。

また、高齢者が介護や支援を必要とする状態になった場合も、可能な限り住み慣れた地域の中で安心して生活できるよう、住民主体の見守り体制の整備を進めるとともに、「我が事・丸ごと」の地域づくりを推進します。

さらに、重要性が高まっている高齢者の権利擁護や認知症高齢者の支援を一層強化するとともに、保健・医療・福祉・介護などの関係機関の連携を強化し、様々な情報の共有と問題解決にあたり迅速な対応や支援、サービスを身近に得ることができる環境の整備を図ります。

### 基本目標2 社会参加の促進と高齢者にやすらぎのあるまちづくり

超高齢社会を豊かで活力ある長寿社会とするためには、高齢者自身が地域社会における役割を見出し、自らの経験や知識、技能を生かせる環境が必要です。

そのため、地域社会活動、生涯学習、就労など、高齢者が生きがいを持って積極的に社会に参加できるよう自己実現の機会の創出を一層推進していきます。

また、長寿社会に対応した住環境を整備するとともに、高齢者を犯罪や災害等から守り、安心・安全に生活できるよう、関係機関や地域団体等の連携・協力による生活環境の整備や地域づくりを強化します。

### **基本目標3**

#### **総合的な介護予防の推進**

超高齢社会を活力ある長寿社会とするためには、高齢者が要介護状態または要支援状態となることを予防し、活動的な生活を送ることができるよう支援するとともに、元気な高齢者を含む地域住民や NPO など多様な主体による新たなサービスの提供体制の整備を図り地域全体で高齢者を支える仕組みづくりが必要です。

また、地域において高齢者が介護予防に関心を持ち、自主的に介護予防活動に取り組む仕組みや通いの場等の環境づくりも必要です。

そのため、地域における高齢者の状況を的確に把握し、必要な方に効果的な予防対策を行えるよう、自立の視点に立ち、利用者の状態に応じた、介護予防・日常生活支援総合事業（以下「総合事業」という。）、予防給付及び地域における介護予防活動の推進を図ります。

### **基本目標4**

#### **介護サービスの充実による安心基盤づくり**

介護が必要な状態になっても必要な介護サービスを受けることにより、できる限り住み慣れた地域や家庭で日常生活が送れるように支援し、身体機能等の維持、改善を目指して、介護度の重度化を防ぐことも重要です。

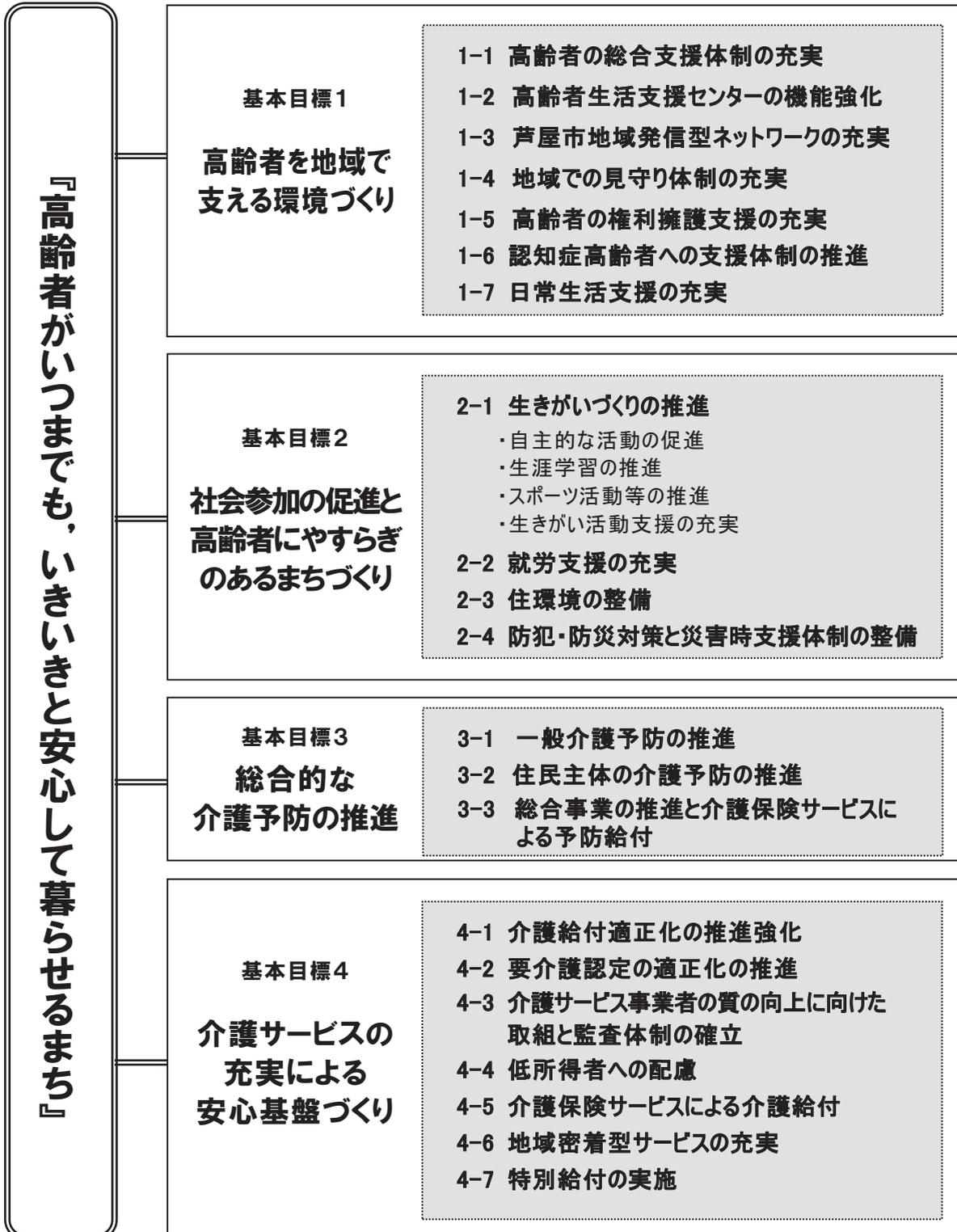
そのため、要介護認定の適正化、適切な介護給付や苦情対応体制の充実、監査体制の確立等により、適性かつ質の高い介護保険サービスの提供に努めるとともに、低所得者の負担軽減等に取り組みます。また、医療ニーズの高い利用者をはじめとした様々なニーズに柔軟に対応し、地域の実情に合わせて要介護者の在宅生活を支えるためのサービスの整備を図り、超高齢社会における安心基盤づくりを進めます。

### 3 施策の体系

本計画では、基本理念の実現に向けて、次のような体系で施策を推進していきます。

基本理念

基本目標と施策の展開方向



## 4 計画対象者の推計

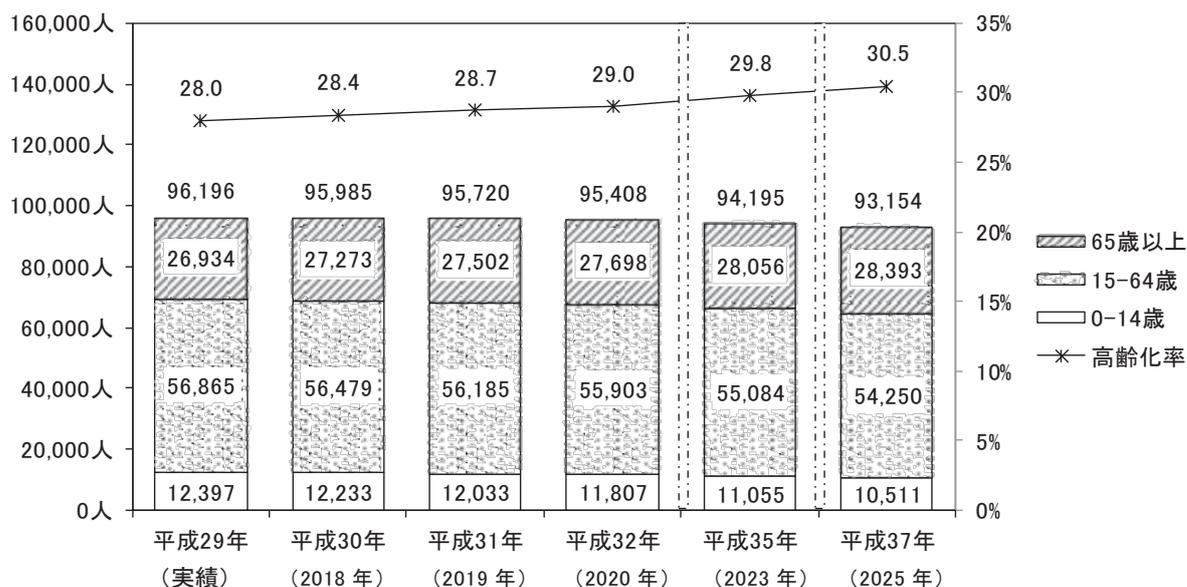
### 4-1 40歳以上人口

計画値の基礎となる平成32年(2020年)までの推計人口を算出しました。また、団塊世代が後期高齢に移行する平成37年(2025年)を見据えて、平成35年(2023年)、及び平成37年(2025年)の推計人口を算出しました。

本市の総人口は、計画期間中(平成30年～32年)は減少傾向で推移し、平成32年(2020年)に95,408人となります。

一方で、高齢者人口は、平成37年(2025年)まで上昇傾向で推移するため、さらに高齢化率は高くなると予想されます。高齢化率は平成37年(2025年)には、30.5%になると見込まれます。

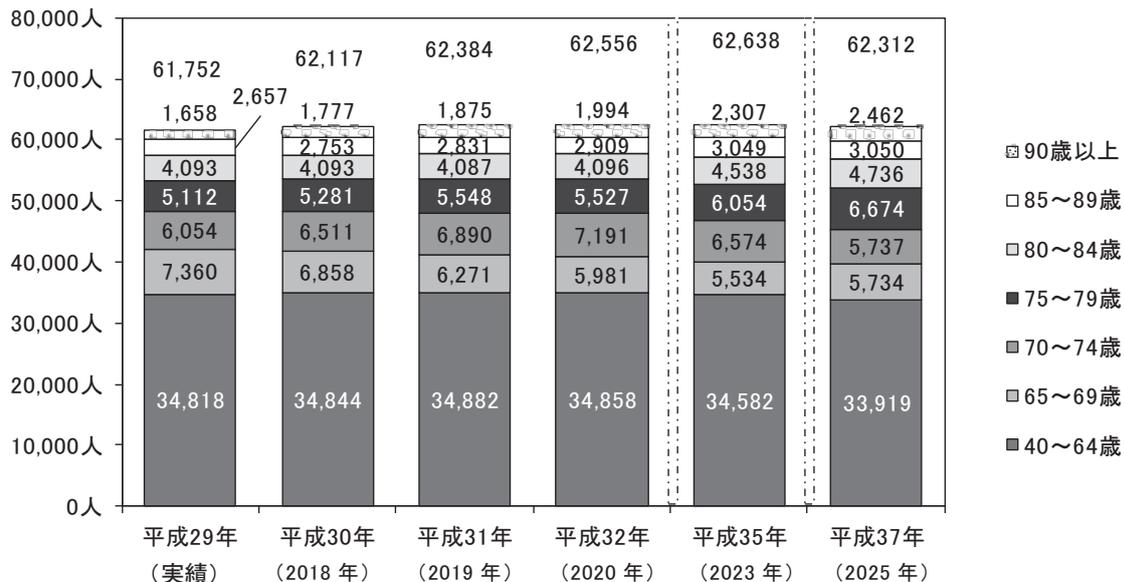
年齢3区分別人口推計



資料：住民基本台帳(各年10月1日現在)をもとに、コーホート変化率法(※)を用いた推計。

介護保険制度の第2号被保険者に該当する40～64歳人口は、総人口の推移と同様に、計画期間中（平成30年～32年）は平成31年（2019年）を頂点に以降減少傾向に転じると見込まれます。一方、第1号被保険者に該当する65歳以上人口は平成37年（2025年）まで上昇傾向で推移すると見込まれます。

40歳以上の人口推計



資料：住民基本台帳（各年10月1日現在）をもとに、コーホート変化率法を用いた推計。

（※）コーホート変化率法とは

同年（または同期間）に出生した集団をコーホートといい、コーホート毎の数年間の人口の増減を人口の変化率として、その変化率が将来も大きく変わらないものとして人口を推計する方法。

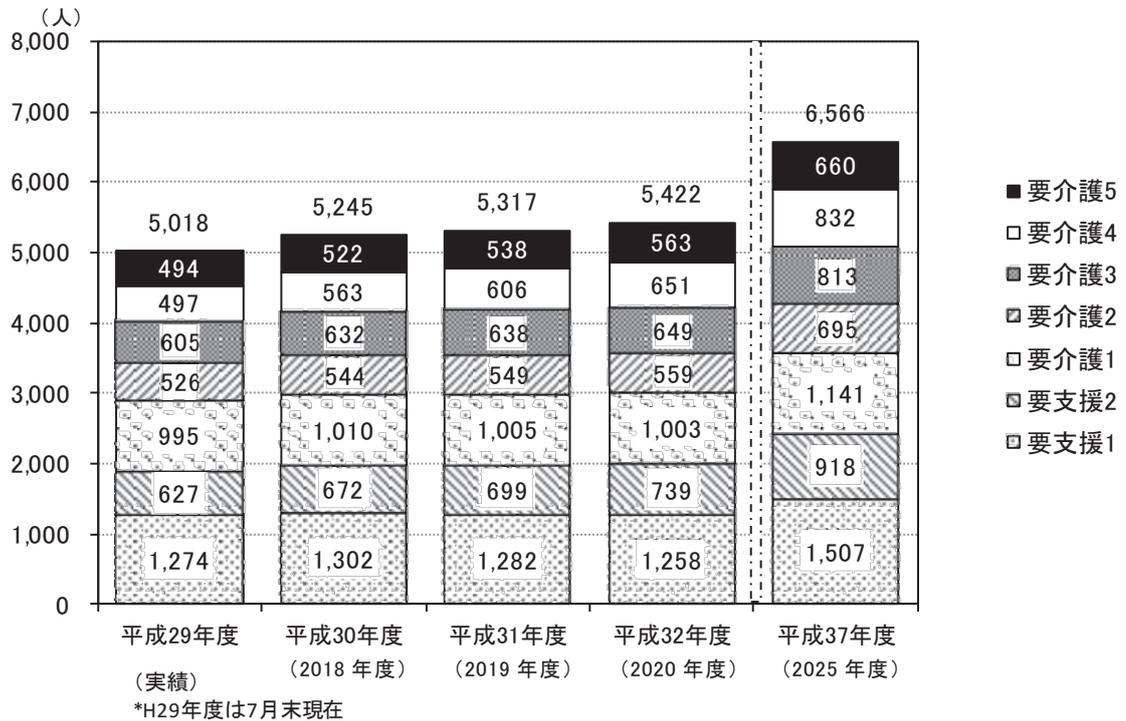
この方法は、推計するものが比較的近い将来の人口であり、変化率の算出基礎となる近い過去に特殊な人口変動がなく、また推計対象となる近い将来にも特殊な人口変動が予想されない場合に用いることができる。

## 4-2 要介護等認定者数

介護保険サービス対象者の基礎となる要介護等認定者数は、各年度の要介護認定率の推計値を各年度の被保険者数に乗じて推計しました。

その結果、要介護等認定者数は平成29年度の5,018人から、平成32年度(2020年度)には5,422人へ増加することが予想されます。

要介護等認定者数の推計



## 5 日常生活圏域

高齢者が住み慣れた地域でいつまでも安心して暮らせるためには、それを支える基盤として、保健・福祉や医療関連の施設だけでなく、「住まい」や他の公共施設、交通網、さらには、こうした地域資源をつなぐ人的ネットワークも重要になってきます。

本市では、高齢者を住み慣れた地域で支える「地域包括ケアシステム」を推進するために、中学校区を基本に「日常生活圏域」を設定しています。それぞれの日常生活圏域には「高齢者生活支援センター」（地域包括支援センター）を設置しており、身近な相談窓口としての機能を含めた地域支援事業（包括的支援事業）や、要支援認定者等への介護予防ケアマネジメントを一体的に実施しています。また、民生委員・児童委員や福祉推進委員、自治会などの地域の団体等と連携して高齢者の支援を行っています。

本計画期間においても、この日常生活圏域ごとに介護施設の整備を進めるなど、介護サービスの充実を図っていきます。

日常生活圏域の概要

（単位：人）

	人口	65歳以上人口		75歳以上人口		
		高齢化率	構成比		構成比	
山手生活圏域	42,784	11,784	27.5%	43.8%	6,054	44.8%
精道生活圏域	35,042	9,014	25.7%	33.5%	4,445	32.9%
潮見生活圏域	18,370	6,136	33.4%	22.8%	3,021	22.3%
市全体	96,196	26,934	28.0%	100.0%	13,520	100.0%

\* 平成29年10月1日現在

